

シラバス（授業概要）

2025 年度

授業科目名		外国語Ⅰ（中国語）																
学科・コース		グローバルビジネス科																
担当教員		金 小賢																
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位						
講義		・ 演習		1		通年		選択		30		2						
授業目的 到達目標		中国語の学習を通して、豊かな発想力を涵養する。言葉の学習の過程で人間的な観察力、物事の分析力、課題設定力そして充実した気力が磨かれる。中国語検定HSK３級の合格を目指し、中国語の聴解力、正確的な日常活動の応答力を身に付ける。																
授業手法		・ 対面		○		・ 遠隔				・ 対面/遠隔				・ オンデマンド				
アクティブ ラーニング		事前学習型授業		○		反転授業				調査授業				フィールドワーク				
		双方向アンケート		○		ペアワーク		○		グループワーク				ロールプレイ		○		
		プレゼンテーション		○		PBL				模擬授業		○		その他				
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略										わかる目標・できる目標					
	1～3		発音の基本/単語の覚え方の紹介										① 発音の仕組みを心得る ② 会話文の表現の特徴を把握できる ③ 自らの応答を正確、且つ効果的に表現 ④ 常用名詞を３００個聴解できる ⑤ 常用動詞を３００個聴解できる ⑥ 日常的な会話文を創れる ⑦ 臨機応変に単語文章化にする ⑧ 文章に正しい単語を織り込ませる ⑨ 新しい言葉学習の習慣を身に付ける ⑩ 漢字で意味のイメージできる					
	4～6		応用から基礎をつくるための学び方															
	7～9		絵を見て正確な表現を学ぶ															
	10～12		単語で文の順番を正確に配置するコツを覚える															
	13～15		会話文のかみ合わせ練習															
	16～18		単語の聴解/テーマ別でロールプレー															
	19～20		前期定期評価															
	21～24		HSK中国語検定の練習法の紹介															
	25～30		短文と短文の結び方練習 1															
	31～32		短文と短文の結び方練習 2															
	33～36		聴解の文章理解練習 1															
	37～40		聴解の文章理解練習 2															
	41～44		より良い文章の見分け方/オリジナル会話作文															
	45～46		後期定期試験															
成績評価方法		定期試験５０％、課題提出２０％、小テスト２０％、授業参加モチベーション１０％																
使用テキスト／教材		中国語検定HSK公式過去問集３級																
関連科目		外国語Ⅱ																
その他		毎日単語１０個朗読する。※実務経験のある教員が担当する科目である。																

2025 年度

授業科目名		外国語Ⅰ（韓国語）														
学科・コース		グローバルビジネス科														
担当教員		鄭 泰元														
授業形態（主）		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位				
講義		・演習		1		通年		選択		30		2				
授業目的 到達目標		韓国語の文字を読む・基礎文法の習得・基本表現（叙述形、否定形）ができる														
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド		
アクティブ ラーニング	事前学習型授業		○		反転授業				調査授業				フィールドワーク			
	双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		○	
	プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業内容・ 授業計画	時間数	内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2	ハングルの母音及び子音練習/簡単な挨拶								①文字が読める ②通じる発音で話せる ③叙述形（～です、～ます）が理解できる・話せる ④疑問形（～ですか？～ますか？）が理解できる・話せる ⑤否定形が理解できる・話せる ⑥時間を聞ける、答えられる ⑦値段を聞ける、答えられる ⑧会話体(～요)が理解できる・話せる ⑨ 過去形「いつどこでなにをしたか」の文章 が作れる						
	3～4	発音規則ハングルの母音及び子音練習/簡単な挨拶/激音・濃音練習														
	5～6	ハングルのすべての子音・母音練習/パッチム練習														
	7～8	叙述形（名詞＋です）														
	9～10	叙述形（動詞＋ます・形容詞＋です）														
	11～12	何時ですか？（時間を聞く・答える） ビジネス会話(ホテル)														
	13～14	前期評価														
	15～16	いくらですか？（値段を聞く・答える） ビジネス会話(ホテル)														
	17～18	動詞形容詞の活用練習/ビジネス会話(ホテル)														
	19～20	否定形（動詞、形容詞）ビジネス会話(空港)														
	21～24	会話体（丁寧でやさしい表現）ビジネス会話(空港)														
	25～28	過去形の練習/ビジネス会話まとめ														
	29～30	後期評価														
成績評価方法		授業参加度30%、評価試験70%														
使用テキスト／教材		韓国語を学ぼう初級、プリント資料														
関連科目		外国語Ⅱ														
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である。														

2025 年度

授業科目名		国際ビジネス基礎															
学科・コース		グローバルビジネス科															
担当教員		山梨千恵子															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
講義				1		通年		必修		30		2					
授業目的 到達目標		国際ビジネスの基礎知識となる国際経済地理として世界の産業や貿易、様々な国際規格について学ぶ。輸出入の物流の仕組みなど国際物流の知識を企業連携を通して実践的に学びます。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク		○		ロールプレイ			
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		航空貨物概要①								① 航空貨物の知識を身に付ける ② 輸出サイド、輸入サイドでの業務について知る ③ 主要な国々の都市コード、空港コードが分かる ④ 海上輸送貨物の知識を身に付ける ⑤ 貿易取引の流れが分かる ⑥ 通関関連法務の知識を身に付ける ⑦ 通関関連知識を身に付ける ⑧ 世界の国々と日本の関係を知る						
	3～4		航空貨物概要② 現場研修														
	5～6		航空貨物概要③														
	7～8		グループワーク輸出編														
	9～10		グループワーク輸入編														
	11～14		国際海上貨物概要														
	15～20		通関関連知識														
	21～26		通関関連実務														
	27～30		通関地理														
成績評価方法		出席25%、レポート25%、試験50%															
使用テキスト／教材		通関ビジネス実務ベーシックマニュアル、配布プリント															
関連科目		国際ビジネス応用															
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である。															

2025 年度

授業科目名		TOEIC Speaking I															
学科・コース		グローバルビジネス科															
担当教員		Anthony Cook															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
演習		・講義		1		通年		必修		30		1					
授業目的 到達目標		The TOEIC® Speaking Test is a 20-minute, 11 question assessment of a person's spoken English proficiency. This course will guide students through the question types, test strategies, and test simulation.															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		○	
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		Unit 1: Read a Text Aloud I								① テストの形式を理解する ② テスト内容を理解する ③ 試験時間を理解する ④ 採点基準を理解する ⑤ 発音の改善 ⑥ イントネーションの改善 ⑦ 流暢さの向上 ⑧ フォーマルなフレーズ						
	3～4		Unit 2: Read a Text Aloud II														
	5～6		Unit 3: Describe a Photograph I														
	7～8		Unit 4: Describe a Photograph II														
	9～10		Unit 5: Respond to Questions I														
	11～12		Unit 6: Respond to Questions II														
	13～14		Unit 7: Schedules & Advertisements I														
	15～16		Unit 8: Schedules & Advertisements II														
	17～18		Unit 9: Express an Opinion I														
	19～20		Unit 10: Express an Opinion II														
	21～22		Unit 11: Review Test 1														
	23～24		Unit 12: Review Test 2														
	25～26		Unit 13: Review Test 3														
	27～28		Unit 14: Review Test 4														
29～30		Unit 15: Review Test 5															
成績評価方法		Effort & Participation 25%, Paper Test 75%															
使用テキスト ／教材		Class materials will be distributed at the start of each class.															
関連科目		TOEIC Speaking II															
その他		This class is conducted in English. You may require your PC sometimes. ※実務経験のある教員が担当する科目である。															

2025 年度

授業科目名		カスタマーサービス概論													
学科・コース		グローバルビジネス科													
担当教員		大石 麻美													
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位			
演習		・講義		1		通年		必修		30		1			
授業目的 到達目標		日本が世界に誇るおもてなしの心とは何かについて、グループワークを中心に学びます。また、幅広い接客接客業界の動向及び職種の内容についても理解を深め、適切なカスタマーサービスを提供できるスキルを習得します。													
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔			・オンデマンド		
アクティブ ラーニング	事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク		
	双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		○
	プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他		
授業 内容 ・ 授業 計画	時間数	内容概略								わかる目標・できる目標					
	1～2	授業説明・おもてなしとは何か								①おもてなしの基礎が理解できる ②必要な表現力を理解し活用できる ③各業界の違いを理解できる ④各業界の必要要素を理解できる ⑤各業界で必要なおもてなしを提供できる ⑥基本的な語彙力・表現力を習得できる					
	3～6	おもてなしの業界・職種理解													
	7～10	表現力の重要性													
	11～14	「航空業界」を理解する													
	15～18	「ホテル業界」を理解する													
	19～22	「旅行・観光業界」を理解する													
	23～26	「小売業界」を理解する													
	27～30	総括													
成績評価方法		出欠席（35％）授業態度（30％）提出課題（35％）													
使用テキスト ／教材		講師作成プリント													
関連科目		国際ビジネス応用													
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である。													

2025 年度

授業科目名		Communicative English I															
学科・コース		グローバルビジネス科															
担当教員		Anthony Cook															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
実技		・ 講義		1		通年		必修選択		60		2					
授業目的 到達目標		Students learn about a different country each lesson. They will learn and discuss the history, food, culture, tourist spots, and language of the country. This class is conducted in English.															
授業手法		・ 対面		○		・ 遠隔				・ 対面/遠隔				・ オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート		○		ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		○	
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		Iceland & The Philippines								① 外国の歴史的事実を学ぶ ② 外国語で自己紹介ができる ③ 海外の観光スポットを知ることができる ④ 外国の食文化を学ぶ ⑤ 外国についての意見を書くことができる ⑥ 文化的認識を深める						
	3～4		Denmark & Jamaica														
	5～6		New Zealand & Peru														
	7～8		Canada & Italy														
	9～10		Poland & Thailand														
	11～12		Spain & Hawaii														
	13～14		Malaysia & Argentina														
	15～16		Sweden & South Korea														
	17～18		Malta & Hong Kong														
	19～20		France & Australia														
	21～22		Portugal & Germany														
	23～24		Brazil & UK														
	25～26		Holland & Mexico														
27～28		China & New Zealand															
29～30		Norway & India															
成績評価方法		Attendance 25%, Effort & Participation 25%, Written Reports 50%															
使用テキスト ／教材		Materials related to each country will be distributed at the beginning of the lesson.															
関連科目		Communicative English II, TOEIC Speaking II, English Reading															
その他		Students are required to bring their PC to class. This class is conducted in English. ※実務経験のある教員が担当する科目である。															

2025 年度

授業科目名		比較文化研究Ⅰ															
学科・コース		グローバルビジネス科															
担当教員		山梨千恵子															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
講義		・演習		1		通年		必修		30		2					
授業目的 到達目標		グローバル社会において必要な「異文化理解力」を身に付けるための素地を獲得することを目標とする。世界各国の文化を比較しながら、時候の文化、世界情勢、国際問題についての理解を深めます。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業		○		フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク		○		ロールプレイ			
		プレゼンテーション		○		PBL		○		模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		グローバル社会の基礎知識、「異文化理解力」とは								① 異文化理解の知識 ② ローコンテキスト文化・ハイコンテキスト文化の知識 ③ 移民についてのトピックの理解 ④ 世界三大宗教・世界の宗教についての基礎知識 ⑤ 世界の食文化の基礎知識 ⑥ 言語と文化についての基礎知識 ⑦ 世界遺産・文化財についての基礎知識 ⑧ 世界の美術・芸術についての基礎知識 ⑨ 世界経済の基礎知識 ⑩ 比較文化研究のプレゼンテーションができる						
	3～4		ハイコンテキスト文化・ローコンテキスト文化														
	5～6		文化の影響と社会制度・移民問題と多文化主義														
	7～10		世界の宗教・多文化共生社会														
	11～14		食文化・食習慣・風土・歴史														
	15～16		プレゼンテーション①														
	17～18		言語と文化・多種多様な非言語コミュニケーション														
	19～20		世界遺産・日本の文化遺産/文化財														
	21～22		美術と芸術														
	23～26		世界の経済と情報社会・デジタル化で変革する社会														
	27～30		プレゼンテーション②														
成績評価方法		出席率(50%)、授業レポート(30%)、プレゼンテーション(20%)															
使用テキスト／教材		授業内で配布する資料															
関連科目		比較文化研究Ⅱ															
その他		※実務経験のある教員が担当する科目である。															

2025 年度

授業科目名		Vocational English I															
学科・コース		グローバルビジネス科															
担当教員		Anthony Cook															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
演習		・講義		1		通年		必修		30		1					
授業目的 到達目標		This course is designed to provide an introduction to the various types of career in which English is used. Each unit will focus on the types of phrases and vocabulary used as well as useful information about the specific responsibilities of each line of work.															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート		○		ペアワーク		○		グループワーク		○		ロールプレイ		○	
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		Working for Airlines								① キャリアの選択肢に対する意識の向上 ② 仕事の責任についての理解を深める ③ 英語で自己紹介ができる ④ 面接での質問を理解する能力 ⑤ 面接の質問に答える能力						
	3～4		Working at Airports														
	5～6		Working at Hotels														
	7～8		Working at Tourist Attractions														
	9～10		Working with Children														
	11～12		UWorking with foreign languages														
	13～14		Self-Introduction in English														
	15～16		Interview Questions about Self I														
	17～18		Interview Questions about Self II														
	19～20		Interview Questions about Work I														
	21～22		Interview Questions about Work II														
	23～24		Review Lesson 1														
	25～26		Review Lesson 2														
	27～28		Review Lesson 3														
29～30		Review Lesson 4															
成績評価方法		Effort & Participation 25%, Paper Test 75%															
使用テキスト ／教材		Materials related to each career, will be distributed at the beginning of each class.															
関連科目		Vocational English II															
その他		This class is conducted in English. ※実務経験のある教員が担当する科目である。															

2025 年度

授業科目名		ビジネス英語															
学科・コース		グローバルビジネス科															
担当教員		杉山和代															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
講義		・演習		1		前期		必修		30		2					
授業目的 到達目標		貿易に関する基礎知識を習得する。英文Eメールやレターの読み方、海外取引の概要を理解する。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク				ロールプレイ			
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		英文レターのフォーマットとEメールの注意点								① 短めの英文レターが読める ② 短めの英文Eメールが読める ③ 基本的な貿易書類の内容が理解できる ④ 信用状取引の概要を理解できる ⑤ 輸出入における、ものとお金と書類の 流れを理解できる ⑥ 英語でレターとEメールの定型文が 書ける						
	3～4		レターとEメールにおける定型文の英作文														
	5～8		さまざまな場面のレターの内容理解														
	9～12		さまざまな場面のEメールの内容理解														
	13～16		信用状取引の概要理解														
	17～20		さまざまな貿易書類の基本的な理解														
	21～24		輸出入における、ものとお金と書類の流れの理解														
	25～30		海外取引を行う2社の、契約までの流れ（Eメール）														
成績評価方法		出席率（10％）と、期末試験（90％）															
使用テキスト ／教材		日商ビジネス英語検定3級のテキストを基に講師が作成したプリント															
関連科目		国際ビジネス応用															
その他		記載のコマ数は授業の進行具合によって変わる場合がある															

シラバス（授業概要） 2025 年度

シラバス（授業概要） 2025 年度

授業科目名		Mind Awareness															
学科・コース		グローバルビジネス科															
担当教員		松永 祐子															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
演習		・講義		1		通年		必修		30		1					
授業目的 到達目標		社会人として必要となる自己調整力をさまざまな角度から学んでいきます。理論を理解するだけでなく、日常で実践することにより、自分らしい幸せな生き方・働き方を見つけていくことを目指します。自己診断ツールを活用した授業も行っていきます。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク			
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク		○		ロールプレイ			
		プレゼンテーション				PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～2		授業説明・自己紹介								①自己調整力を高めることができる ②他者との関係づくりのコツが分かる ③自分の感情を自分で調整できる ④自分の強みの理解と活用法が分かる ⑤出来事への正しい認知と行動が選べる ⑥ストレス耐性を高められる ⑦心の回復力を養うことができる ⑧自他への思いやりの効能を理解し 実践できるようになる						
	3～4		ウェルビーイング（良い状態を保つヒント）														
	5～6		強みを知り活かす方法（VIA-IS診断）														
	7～10		内的コントロール心理学①（欲求と願望）														
	11～14		内的コントロール心理学②（行動のしくみを知る）														
	15～16		怒り感情の取り扱い（怒りの仕組み）														
	17～18		怒り感情の取り扱い（怒りへの対処法）														
	19～22		ストレスマネジメント														
	23～26		レジリエンス（心の回復力を養う）														
	27～28		コンパッション（自他への思いやり）														
	29～30		前期試験														
成績評価方法		出欠席（30％）、授業態度（30％）、提出物（20％）、試験結果（20％）															
使用テキスト ／教材		・オリジナルテキスト ・「親切は脳に効く」デビッド・ハミルトン著															
関連科目																	
その他																	

2025 年度

授業科目名		デジタルコミュニケーションⅠ																
学科・コース		グローバルビジネス科																
担当教員		山梨千恵子																
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位						
講義		・演習		1		後期		必修		30		2						
授業目的 到達目標		コンピューター操作やICT知識を身に付け、あらゆるビジネスシーンで活かせるデジタルコミュニケーションスキルを習得する。そのための基礎力を身に付ける。																
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド				
アクティブラーニング		事前学習型授業				反転授業				調査授業				フィールドワーク				
		双方向アンケート				ペアワーク				グループワーク				ロールプレイ				
		プレゼンテーション		○		PBL		○		模擬授業				その他				
授業内容・授業計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標							
	1～4		ITの概要と専門用語								① IT全般の基本を知る ② 専門用語を知る ③ コンピュータの基本的な処理機能を知る ④ データと情報の価値が分かる ⑤ トラブルシューティング方法を知る ⑥ オペレーティングシステムが分かる ⑦ ソフトウェアの機能を知る ⑧ ソフトウェアの適切な使用方法を知る ⑨ 一般的なファイル形式が分かる ⑩ ウェブブラウザの設定ができる							
	5～6		・表記法について・コンピューティング															
	6～7		・データと情報の価値について															
	8～9		・一般的な単位の比較															
	10～11		・トラブルシューティング・具体的な対応例															
	12～15		アプリケーションとソフトウェア															
	16～20		・モバイルデバイスのオペレーティングシステム															
	21～22		・フォルダやファイル管理															
	23～26		・ソフトウェアツールの機能と目的															
	27～30		・ウェブブラウザ															
成績評価方法		出席25%、授業内の小テスト25%、学期末試験50%																
使用テキスト／教材		講師配布プリント																
関連科目		デジタルコミュニケーションⅡ、プレゼンテーション、English Media																
その他		毎回PCを持参してください。																

2025 年度

授業科目名		海外生活・文化研修															
学科・コース		グローバルビジネス科															
担当教員		山梨千恵子・鍋田洋子															
授業形態(主)		授業形態		履修年次		履修学期		必修・選択		総時間数		単位					
実習		・講義		1		通年		必修		60		2					
授業目的 到達目標		ボランティア・就業体験を含む海外留学を通して、語学のブラッシュアップと共に異文化コミュニケーション力を身に付けることを目標とします。英語でのプレゼンテーションを含む事前学習と帰国後は発表会を行います。															
授業手法		・対面		○		・遠隔				・対面/遠隔				・オンデマンド			
アクティブ ラーニング		事前学習型授業		○		反転授業				調査授業		○		フィールドワーク		○	
		双方向アンケート				ペアワーク		○		グループワーク				ロールプレイ			
		プレゼンテーション		○		PBL				模擬授業				その他			
授業 内容・ 授業 計画	時間数		内容概略								わかる目標・できる目標						
	1～4		2年生による留学発表会聴講								① 留学の目的を知る・マインドセット ② 留学先について調査、留学国の文化を知る ③ 自己と日本の文化の紹介についてプレゼン発表ができる ④ 海外の治安などについて、自分を守る方法を知る ⑤ 留学先についての小冊子を作成する ⑥ 留学するに当たり最終的に知っておくべき事を知る ⑦ 異文化の中でも自分の意思表示が出来、相手も受け入れる姿勢を作る ⑧ 労働体験・ホームステイを通し、現地の生活習慣や文化、ものの考え方を学ぶ ⑨ 留学中に現地語で毎日その日の出来事について、日本語で気づきや学びについて課題を出す ⑩ 留学の成果について、留学後にプレゼンが出来る						
	5～8		海外留学の目的・オリエンテーション														
	9～12		留学先概要について調査														
	13～16		留学先文化について調査														
	17～24		自己紹介・日本について紹介プレゼン準備														
	25～28		プレゼンテーション発表会														
	29～32		エアライン科との連携授業（チェックイン・機内）														
	33～52		留学冊子の作成 ①～⑥														
	53～56		ホームステイのケーススタディ														
	57～58		留学出発前最終確認事項の確認														
	59～60		留学課題提出・留学発表会準備														
成績評価方法		プレゼン発表（30％）・留学後の提出物（20％） 留学準備における提出物（40％）授業態度・出欠席（10％）															
使用テキスト／教材		講師作成プリント															
関連科目		比較文化研究Ⅱ															
その他		各自毎時間PCを持参すること。※実務経験のある教員が担当する科目である。															